



144  
No.

2008.3.7

青山クローリエ

発行:青山学院女子短期大学 〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111  
http://www.luce.aoyama.ac.jp/  
AOYAMA GAKUIN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

クローリエは(Courier)はフランス語で「使者」、「定期便」を意味し、英語ではCourierと綴ります。本学の広報誌として、4月、7月、12月、3月の年4回発行されています。青山クローリエは本学のホームページからもご覧いただけます。

CONTENTS

**Front-Page Message**  
巻頭言「卒業する皆さんへ」高野嘉明…………… 1

**Topics**  
卒業特集「卒業するいま」…………… 2  
「卒業生へ贈る言葉」…………… 3

**Voices&Echoes**  
退任の辞…………… 4・5  
Our Memories・スピーチコンテスト…………… 6  
クローリエ歌壇・クローリエブックレビュー…………… 7

**Bulletin Board**  
同窓会の案内・卒業後の案内ほか…………… 8

## 卒業する皆さんへ

英文学科主任 高野 嘉明



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。  
入学時には期待に胸をふくらませていた人、不安の方が大きかった人など色々だったことと思いますが、卒業に当たってはどのような思いを胸に巣立っていくのでしょうか。また、卒業後は就職する人、編入する人、留学する人など、今後の進路も多様です。このような様々な道を行く皆さん全員に共通して贈る言葉を私は持っていません。そこで、編入や留学などをする人達も最終的には就職することになると思いますので、人生で最後の卒業をする、ということの意味を考えてみたいと思います。

今までは、一つの学校を卒業して別の学校に進学する、ということを繰り返してきたわけですが、そこにはある種の明確な継続性がありました。そこでは例えば学校の成績が大きな比重を占めていました。しかし、学校と呼ばれる所を去って職場と呼ばれる所に入っていくと、そこには学校とは多くの点で大きく違った世界があります。

例えば、今までは気の合う友達とだけ付き合うことも可能だったでしょうが、職場ではそういうわけにはいきません。上下関係もあります。ですから、学校と実社会の間には、学校から学校への進学の場合よりも深い断絶があります。一方で、皆さん自身は、学生の身分最終日の3月31日と社会人1日目の4月1日とで、精神的にも肉体的にもほとんど何も変わっていません。つまり、社会に出るということは、昨日までと同じ自分が、昨日までとは異質な環境の中に入っていく、ということです。

そこでは、学校で必要とされた能力とは別の能力も要求されることでしょう。そして、途惑うこともあるでしょうし、悩むこともあるでしょう。もちろん楽しいことや嬉しいこともあるでしょう。いずれにしろ、大切なことは、第一希望の所に就職する人もそのほかの所に就職する人もいるでしょうが、とにかく自分が与えられた職場で自分なりに一所懸命がんばる、ということだと思います。これを黙々と実践したある卒業生は、社会人3年目の春に上司に呼ばれ、「四年制大卒と基本給を同じにするから、この会社を3年で辞めるなどとは考えないでほしい」と言われました。これは稀な例かも知れませんが、努力していれば必ず誰かが見てくれる、と信じてください。そして、つらい時や悩める時に安心して相談できる人がいつもそばにいる、という状態にしておいてください。

皆さんが何十年か後にこの世に別れを告げる際、「私の人生はまずまず幸せだった」と思えるようになることを祈っています。





# 卒業するいま



巣立ちの時を迎えた今の思いを綴ってもらいました。

## 国文学科で学んだこと 国文2年 内田 茉由子

この2年間は、本当にあっという間でした。授業を通して専門的な知識を得ていくことに勉強のおもしろさを見出し、サークルや「あおやま」編集委員会の活動を通して貴重な体験をしたりとても充実していたように思います。卒業論文では、以前から興味があった『枕草子』を扱い、そこで専門的な勉強を重ねるにつれ、まだまだ取り上げたいテーマや疑問がたくさん残っていることに気づかされました。そしてもっと勉強したいという思いから、編入試験に挑戦した結果、4月から青山学院大学で学べることになりました。やりたいことが明確になってきた今だからこそ、さらに勉強できるチャンスがあることの重みを感じています。新しい環境でも、短大生活で築き上げた土台に自信を持って、励んでいこうと思います。



## 教養学科で学んだこと 教養2年 三井 美穂

2年前の4月、「短大生活を悔いのないようにしたい」という期待に満ち溢れていました。今振り返ってみますと、この2年間は本当にあっという間でした。しかし、今までに経験したことのないほど充実していて、忘れられないものとなりました。それは、素晴らしい友達や先生方との出会いがあったからです。



また、教養学科での学びは、未熟だった私に社会のあらゆる問題について関心を持たせてくれ、ここで学んだことは今後の私の人生の羅針盤となるものと思います。

これから社会人として巣立ってゆきますが、困難に遭遇した時はこの学校で過ごした日々を糧に頑張っていきたいと思います。

2年間お世話になった諸先生方、本当にありがとうございました。心から感謝いたします。

## 英文学科で学んだこと 英文2年 北山 未央

「青短に入学して良かった！」この2年間で、何度そう感じたことでしょうか。渋谷という大都会にありながら、門をくぐると緑に囲まれた穏やかな雰囲気があり、学生にとって最高の学び場でした。ゼミでは、主に英語圏の国々と日本の文化の比較をすることにより、世界の人々とコミュニケーションをとることの難しさを知るとともに、言語と文化を学ぶことの楽しさを強く感じました。青短で、いつも学生のためにアドバイスをくださる先生方や、何でも話し切琢磨磨し合える友人と出会えたことは、私にとって一生の財産です。あっという間の学生生活ではありましたが、日々何かを吸収し、成長できた実りある2年間でした。4月からは、念願であったホテルウーマンとしての一步を踏み出します。青短で得た多くのことを活かし、社会に羽ばたいてゆきたいと思います。



## 芸術学科で学んだこと 芸術2年 大橋 真澄

芸術学科で、私は制作や理論など芸術について多くのことを学びましたが、卒業研究では「織」を専攻しました。それは「織」のテクチャーや染めに魅力を感じたからです。そこで私は、作品制作にむけてイメージを具体化することの難しさ、そして制作過程では、部分を織りながら、常に全体の構成を意識し素材の持っている性質の良さを最大限に生かすことの重要性などを学びました。また完成時には大きな達成感を味わうことができ、このことは貴重な経験でした。理論では、芸術を哲学や歴史、美術史的な視点などから学び、芸術作品の奥の深さを知的に学ぶ喜びを知りました。このように学んでいく中で、私はルネサンスの芸術に興味を持ち、理論、特に美術史を更により深く追究したいと思い、卒業後大学に編入学し、美術史を学ぶことにしました。私にとって短期大学は、芸術の新たな魅力を発見でき、素晴らしい経験をする事ができた2年間でした。



## 家政学科で学んだこと 家政2年 小餅 なつみ

本学での2年間はあっという間に過ぎていきました。入学当初は慣れない環境に不安もありましたが、新しい生活に心を弾ませていたことを懐かしく思います。卒業するいま、青短に入学してよかったと心から思うと共に、支えてくれた全ての人達に感謝の気持ちでいっぱいです。本学での学びはとても充実したものでした。幅広い分野から関心あることを学べ、入学する前から興味を持っていた調理文化のゼミでも興味の赴くままに、研究することが出来ました。また初めは関心が薄いことでも、学んでいくうちに楽しくなり、知っていく喜びを感じました。学んで得た知識や考え方はこれからの人生に大きく活かされるだろうことと思います。



## 専攻科で学んだこと 児童教育専攻 橋本 美穂

本物を見つけることの楽しさ、そして大切さを青短は教えてくれた。何事もなかったかのように次々と流れる時間の中で、立ち止まってみる時間を持ち続けることの大切さを学んだ。新聞に書かれている記事だけが事実ではない、テレビで流れてくるニュースだけが事実ではない。見えてこないものも見ていこう、知っていこうとすることが人生を生きることにつながっているのではないかと強く感じた。「大人になって素敵よ～」と言い続けてくれた先生、「こんな生き方をしたい」と思わせてくれたたくさんの大人たちや副手さん、そして切磋琢磨し合える仲間たちの存在。そんな人たちに会って大人になることが楽しみになった。そう思わせてくれた素敵な人の存在に感謝したい。この恩返しとして、これから出会う人、出会ってきた人に恥じないように生きていきたい。





# 卒業生へ贈る言葉

本学を卒業・修了するみなさんへのメッセージを寄せていただきました。

## 自分を大切に



一般教育科目教授  
宮田 雅智

ご卒業・修了おめでとうございます。短大で過ごされた2年間あるいは3年間はことのほか充実していたことでしょうか。多くのことを学び、様々な経験を積まれたことと思います。新しい生活の中でも学びを続けてください。学びに飽和点はありません。それらの一つ一つが皆さんの歩みを強めてくれるにちがいありません。混沌とした社会ですが、自分を大切に、豊かな人生を切り拓いていってほしいと心から願っています。



教養学科専任講師  
秋富 創

ご卒業おめでとうございます。在学中の2年または3年間においてみなさんはきっと、かけがえのない人生の宝物をたくさん手に入れたことでしょうか。これからみなさんはそれぞれ、新しい世界へ羽ばたくことになるわけですが、どうかその際にはそれらの宝物をもっと磨き上げる努力をしてください。短大時代という人生の貴重な一時期に手に入れた宝物を、これからの人生の糧にできるのかどうかは貴女たち次第です。健闘を祈ります！

## サヨウナラだけが人生だ



国文学科教授  
粟坪 良樹

○読ムコト・書クコト・聞クコト・話スコト・観(見・視)ルコト、を怠らないで下さい。○歯みがきするように映画を観つけて下さい。○活字文字・手書き文字を愛して下さい。○他人の言いなりにしないで下さい。○一人の〈私〉である事の過去・現在・未来を探求して下さい。○安っぽい涙を流さないで下さい。○阿呆なCMに騙されないで下さい。○恋する老年を迎えて下さい。それでは皆さんサヨウナラ。



芸術学科教授  
淀井 彩子

芸術学科のみなさま、ご卒業おめでとうございます。芸術学科で学ぶことを通じて、自分自身と出会い自らの視座を見つけましたか。専門的に美学・哲学、美術史、絵画、デザイン、織を学び、卒業論文、卒業制作の形にまとめました。みなさんはその全行程を通じて大きな成長につながりました。それは選びとったことに真剣に向き合い深めていく場合にだけ得られるものです。凝縮された時間の中で芸術に近く過ごした時間、経験、人間関係はあなた方の大切な宝、夢、勇氣になると思います。未来に向かって新たな一歩を。

## Girls, Be Ambitious!



英文学科専任講師  
梅垣 千尋

みなさんがこれから生きていくのは大きな変化の時代です。だれもが認める「正解」などないなかで、みずからの進むべき道を切り拓いていかなければなりません。でも恐るるに足らず。入学時点の自分と今の自分を比べてみてください。それぞれの分野でさまざまに視野を広げながら、みなさんは自分の頭でものを考える力を身につけてきたはず。これまでの歩みに誇りをもって、次の一歩を踏み出しましょう。ご健闘を祈ります！

## よく生きる



子ども学科准教授  
(児童教育学科)  
菅野 幸恵

ご卒業おめでとうございます。青山を旅立つみなさんに2つのメッセージを。まず「守りに入らない」ということです。他者の目を意識しすぎたり、自分を大切にすぎたり、日常生活で湧き上がる自分や他者に対する違和感をうやむやにしないでほしいのです。次に成果や合理性、効率ばかりが求められる世の中だからこそ、うまくいかないこと、時間のかかることに目を向けてみるということです。今日を、明日を、よく生きていきましょう。



家政学科教授  
鈴木 すゝ江

ご卒業、ご修了おめでとうございます。青山キャンパスに通った2年間あるいは3年間、皆さんはみずみずしい頭脳と感性で多くのことを学びましたね。あっという間に過ぎた学生生活かもしれませんが、入学当初のご自分を思えば、とても大きな成長が確認されることでしょうか。授業やささやかな昼食会で皆さんと共有した時間は私の宝物です。4月から、また新しい勇気をもって、新しい一歩を踏み出してください。



2008年度学生会会長  
○ 取 真生

卒業生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。青短で培った教養、気品を基に社会、進学といったそれぞれの進路において、ご活躍なさることを心より強く信じております。そして私達在校生は先輩達より青短の伝統を継承出来る事を誇りとし、先輩達を見習い学校生活を充実させ、さらに自分自身を向上させていく所存です。先輩達の未来にさらなる輝きがあることを心よりお祈り申し上げます。

## 退 任 の 辞

### 最後の一言

ロバート・タヒューン

ロバート・タヒューン先生を送る言葉

短大で活動の15年間と同時に、そして日本での宣教活動の40年間の締めくりに当たって、どういふことを書き残したいかという課題に直面させられ、何よりも青山学院という大きな組織の中で、特に女子短期大学で活動が出来たことを感謝したいのです。15年前に、当時優れた活動を短大においてなさっていたエリザベス・クラーク先生のご紹介と支援によって短大に入った時、短大の建物ははじめ、大学の仕事に対しても迷路のような感じを抱いていました。しかし、伊藤宗教主任をはじめ、一般教育の同僚のアドバイス、また多くのスタッフの方々の暖かい支援によって自分に鋭い刺激と挑戦を与える仕事に打ち込むことが始められました。その時まで日本の大学の組織と殆ど無縁だった私にとって、これは皆さんが充分想像出来ない程大変な生活変化、また試練でありました。しかし、これは神の深い御導きと信じて懸命に祈りながら1993年の春の1年生と共に短大の門を漕ぎました。



教師と学生の皆さんとの交流を通して、自分の専門分野を乗り越えて絶えず新しい知識に触れることによって、私に新しい世界が開かれ、自分の視野は大きく広められました。私の生涯の中でこのような貴重な交流と経験が許されたこと、皆さんとの出会いが得られたことを感謝しつつ、これからも皆さんが良いご活躍をされることを祈りつつ、新しい生活の場に船出させていただきます。長年、大変お世話になりました。ありがとうございます。

タヒューン先生は1968年来日され、鳥取県の教会で宣教活動に従事された後、1993年より青山学院女子短期大学で教鞭をとってこられました。日本に足かけ40年、本学で15年を過ごされたこととなります。そしてこのたび、宣教師の任期を全うし、アメリカに帰られることになりました。

タヒューン先生のあたたかい人柄とバリトンの美声には、誰もが魅せられてしまいます。「キリスト教学」の授業は、数え切れない学生たちに深い印象を与えてくださいました。宗教活動委員会や国際交流委員会でのお仕事、学院の宣教師や理事としてのお仕事など、学院と本学にキリスト教主義の教育を根づかせる上で多大な貢献をしてくださいました。

タヒューン先生がお帰りのことはとても寂しいことですが、他方でアメリカでの新しい生活が待っていることでしょう。先生とご家族のご健康とご活躍を心よりお祈りするものです。タヒューン先生が本学に残してくださった数々の思い出を胸に刻みたいと思います。先生、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。（一般教育科目 清水 康幸）

### 退任にあたって

加藤 晃

加藤先生を送ることば

私にとって、この1年は、短大生活37年のうちで特異な1年だったような気がします。去年の今頃までは、いずれ時がくれば定年退職するものと承知はしてはいたながらも、そのことをあまり意識することなく、日々を過ごしてきました。ところが、去年の4月からは、状況が一変し、生活の様々な面で、「来年の3月には退職」ということを絶えず意識する或いは意識させられる毎日でした。この感覚の変化は、やや大げさな比喩とは思いますが、医師に余命1年を宣告された日以降の毎日と、それ以前の日々との相違に若干似ているような気がします。



思いついた折々に行ってきた、研究室の様々な資料・記録類の整理や廃棄等も、今までに経験したことのない複雑な感慨を与えるものでした。いずれ大がかりな移動をしなければならない研究室に置いてある書籍も、折に触れて、この1年少しずつ自宅に持ち帰ることにしていましたが、先日その冊数を数えてみたら、100冊を超える量になっていました。

4月からは、校務から解放され、研究に専念できる生活に戻れることを今から楽しみにしています。

2年前、改組改革委員会の仕事で、児童教育学科と協力して立ち上げた、子ども学科（3年制）の第一期生はまだ2年生で、その卒業を見届けることなく学校を去ることは、心残りなことのひとつです。

いろいろありましたが、長年ありがとうございました。

加藤先生が定年となられ教養学科を去られる日が本 coming to me、心が落ち着きません。そしてこの欄を私が書くとは、時間が経つのがこんなに早くてよいのかと思つています。加藤先生は古代史の専門家、特に家族や天皇制をめぐる問題に詳しく、先生の授業を履修した学生のみならずはよく存じでしょう。私は授業に出られなかったので、先生の授業に出た人が本当にうらやましく思います。古代社会を踏まえて現代を見ておられ、学校や教育のありかたについても本質的な議論をされ、教養学科はいつも先生の意見を伺うのが楽しみでした。社会は目まぐるしく変化しますが、人の考えは世代の単位では変わりません。出来の悪い私はまだまだ受け継いでおりません。これからもお元気で変わりなく、そして先生の話の聞ける機会があることを心より楽しみにしています。（教養学科 八耳 俊文）

### 退任の挨拶

天野 宏

事務部長 天野さんを送る

このたび、44年9ヶ月にわたって奉職いたしました青山学院を、本年1月8日をもちまして定年退職いたしました。



昭和38年5月青山学院に就職し、青山学院大学で38年2ヶ月の業務を経験した後、平成13年6月1日付で、青山学院女子短期大学の事務部長として異動してまいりました。女子短期大学では、協議会、教授会、学科主任会、改組改革委員会など各種会議を担当させていただきました。この間の業務を通じて感じた女子短期大学の良さは、教員、職員、学生、同窓会、後援会の連携にあると思います。これらの良さを残しつつ、さらに特色を生かした女子短期大学が永遠に続いていくことを願っております。6年7ヶ月の短い期間ではありましたが、教職員、同窓会、後援会の皆様にはご支援ご鞭撻を賜りありがとうございました。今後とも女子短期大学をご支援くださいますようお願い申し上げます。学生の皆様には、充実した学生生活を送ってくださるようお願いいたします。

末筆になりましたが、教職員の皆様のご健勝とご多幸と並びに青山学院女子短期大学のますますのご発展を心からお祈り申し上げます。

この1月で事務部長だった天野宏さんが定年退職されました。

学校の構成員として学生・教員・職員がいます。青山学院には約500名の職員が在職し、唯一学内を異動という形で部署を動くのが職員です。1993年に私立大学連盟主催の海外大学経営セミナーに参加されて、当時「自己点検・評価」という言葉が真新しいものだったのを、既にアメリカが実績を持っていたので研修という形で視察に行かれたのでした。長い間大学で仕事をされ、定年前6年余りを本学で事務部長として過ごされましたが、過去の経験を最大限に活かされて本学の発展に大きく貢献されました。天野さん、本当にありがとうございました。40数年のお疲れをゆっくり癒してください。これからはご健康に留意されて趣味の野球を楽しんでください。（入試広報課 寺村 真佐子）

### 退任の挨拶

宮治 裕

宮治裕先生を送る

このたび3月をもちまして本学を退任することとなりました。4月からは、青山学院大学に開設される社会情報学部に着任いたします。本学で培った様々な経験を生かしつつ、新たな気持ちで教育と研究に取り組んでまいります。本学には、1997年より11年間お世話になりました。皆様、本当にありがとうございました。



本学で主に担当したコンピュータ関連の実習科目では、操作方法や技術一辺倒にならないように、しかし技術や社会の進展に合わせるということ意識して、毎年内容を改めながら授業を行ってきました。受講くださった皆さんが、どれだけ満足いただけたか定かではありませんが、単に「ワープロ」「表計算」や「ネット活用」ができるだけではなく、授業を通してお話しした情報化社会を生きる知恵が少しでも役に立っているら幸いです。

最後に、本学のいっそうの発展をお祈りいたします。

宮治先生は1997年4月に本学一般教育科目専任講師として就任されました。ご専門はロボット工学ですが、コンピュータ・サイエンスも関連の深い分野で、本学では情報処理関連の科目を中心に担当いただきました。先生の就任を契機に本学の情報教育は格段の充実を達成したと思います。さらに特筆しておきたいのは、就任以来、本学の教育用コンピュータ・システムの設計、構築、運用に心血を注いでくださいました。先生のご尽力無くしてはシステムの安定的提供はありえなかったと思います。本年4月から青山学院大学社会情報学部の専任として赴任されます。本学在任中の先生のご尽力に感謝しつつ、更なるご活躍をお祈りします。（一般教育科目 宮田 雅智）

退任の辞

短大生活三十年

田島 俊雄

田島俊雄先生を送る

私学に関するもの、キリスト教に接するもの初めてのことでしたが、本学に漂う温く豊かな何ものかがキリスト教と深く関るものであることを察するには、さほど長くはかからなかったように思います。

この三十年間のこともいろいろ思い出されますが、その一つにチャペルの建設があります。チャペルと宗教センター、間にほんとは一目を休める場としてのギャラリーという、短大の心臓部を形成するみごとな計画の実施に、感激しつつ関ることができたのは幸いです。また、芸術学科の創設も私には大きなできごとと言えます。宗教に支えられる本学に、純粋な精神活動たる芸術を据えることは理想的に思えるものでした。このことは、私に新たに芸術としてのデザインを考え学ぶ貴重な機会を与えてくれました。

ところで、専門の内でも私の興味の中心は、デザイン・建築や工芸と絵画・彫刻等に通底する造形を探究するという、殆ど未開拓の界にありました。本学就任をきっかけにその実験的な制作にとり組むことができたのは、何よりも恵まれたことと言わねばなりません。先の退任展にはその一部を展示させていただきましたが、これは私の人生にかけがえのない収穫をもたらしてくれるものとなりました。

おわりに、本学は無器用な私をかかまてに生かし育ててくれた環境ですが、それもすばらしい諸先輩方や同僚達、そして明るく楽しい学生達の支えあってのことと深く感謝申し上げます。ありがとうございます。(2008年1月)



芸術学科は1989年4月に始まった。私はその2年前準備のため本学に赴任した。当時田島先生は家政学科で、デザインを通して生活そのものを考えることを教育されていた。芸術学科の理念、「芸術を通して人間を考えること」は、島崎通夫元学長の意を受けて様々な議論の末、「芸術人間学」を中心に、高度に発達した科学技術の時代に於ける人間の在り方を、芸術の理論および実践を通して学ぶことを目指して、体系的に構成された。田島先生はその計画の中心におられ、その後発足とともにこれを実践に移され、現在まで18年間その多くを主任として過ごされた。先生は物事をじっくり考え、常に新しい発想と共に時宜に応じた判断をされた。芸術学科の学生、卒業生達は講習会での愛情溢れる先生のアドバイスは今も思い出すであろう。先生がご健康で創造的な活動を展開されることを学生と共に祈ります。(芸術学科 橋本 典子)

退任の挨拶

前之園 幸一郎

「長年のご尽力に感謝」

敬愛する先生方の一員に加えられた喜びを胸に研究棟の階段を思い切り踏みしめた27年前の本学就任当時の記憶が頭をよぎります。彫刻家、音楽家、俳人、詩人、国文学者などユニークな教養人からなる教師集団の中で、それまで狭い自分の専門領域に閉じこもり視野狭窄に陥っていた私の関心は日ごとにもみほぐされました。雑談とも思える先生方の多方面にわたるお話から自分の視界がぐんぐん開けていく思いがしたものでした。そのような心地よい経験の洗礼を受けたのも、ついこの前のことのように思われてなりません。そして、今にして思えば、本学の教養教育の伝統の背後には専門の垣根を超えた教師たち自身による学びあいが存在していたのだと納得することができず。

学生の皆さんからも多くのことを学びました。わずか2年間の大学生活を通して、大きく成長し目まぐるしい知的変貌を遂げる彼女たちの豊かな可能性にしばしば舌を巻きました。現在、映画監督になって活躍しているある卒業生が述べた「私は青山学院女子短期大学という花屋さんでお花の種を求め、今、私の花を咲かせています」という言葉は私にはとても印象的に思われます。学生の内発的な成長の努力を援助し手助けすることが教師の仕事です。先生方、学生諸君に支えられながら、喜びと誇りをもって定年を迎えられることを嬉しく思います。スクーンメーカー先生以来の伝統の上に本学が一層の発展を遂げることを心から願っております。



先生は、児童教育学科の中核的存在であった故林三平教授の後任として、1981年に就任されました。爾来、教育学担当教授として有為の人材を輩出してきました。また、モンテッソーリ教育学やピノッキオにおける人間形成論などによる社会的貢献も顕著で、博士(宗教文化)の学位を取得された学者です。しかし、短大で学長に推されたこの4年間、短大教育行政の陣頭指揮で粉骨砕身され、ご心労の日々であったと推察されます。この間、持前の誠実無私な人柄と薩摩隼人の気骨で見事に全うされました。ここに、改めて長年に亘る本学へのご尽力に心より感謝申し上げます。今後のご健康と主の豊かな祝福をお祈りいたします。(子ども学科 今関 公雄)

青山学院女子短期大学の皆様へ

黒石 いずみ

黒石先生を送る

2001年から7年の間教養学科に在職させていただきました。ご退職なさった石引先生や足立先生、工藤先生、また青山学院大学に移籍なさった菊池先生ほか教養学科の皆様には様々にご教示・ご支援いただきました。また他学科の先生方や事務や図書館の職員の皆様にも、素敵なお付き合いとご支援をいただき、充実した日々を過ごせたことを大変感謝しております。

本学は私の叔母たちも卒業した縁の深い学校です。実際にお世話になり知ったのは、創設時からの誠実で温かい精神風土が継承されていること、そして先生方の教育者・研究者としての真摯さや職員皆さんの心のこもったお仕事が、楽しさと高い質の教育環境を形作っていることです。皆様や学生さんたちと学校を共に作る思いを経験でき、自由で国際的な空気の中で過ごさせていただいて幸いでした。来年度から青山学院大学総合文化政策学部に移籍しますが、同じ学院の仲間として理想と人間性を大事にした教育を行っていくために、今後ともご指導お願い申し上げます。



黒石いずみ先生は、2001年4月に本学に着任、今年度は在外研究のためイギリスに滞在中ですが、2008年度から、青山学院大学で新たに発足する総合文化政策学部に移られることになりました。

黒石先生のご専門は、建築や都市や環境の、理論と実践の両方に関わっています。教養学科の環境デザイン論だけでなく、家政学科や芸術学科でも授業を担当。授業には、フィールド・ワークや模型作りも取り入れられていたようです。

建築設計会社で働き、アメリカや香港の大学で教えた経験は、短大の建築や国際交流の場面でも生かされ、黒石先生は、さまざまな課題に、率直に、正面から取り組んでくださいました。

総合文化政策学部における、ますますのご活躍を期待します。(教養学科 中井 章子)

退任の挨拶

小林 知博

小林知博先生を送ることは

桜が咲き誇る美しい青山学院女子短期大学に心躍る気持ちで勤めはじめて3年が経ちます。その間、様々な先生方、職員の方々、学生達に出会い、多くの支えを受けながら楽しく過ごさせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。本学、特に教養学科の特徴に「少人数教育で教員と学生との距離が近い」という点がありますが、クラス担任や専門演習やアドグルでかかわった学生達は、よく私の研究室を訪ねて来てくれました。また身近に接することにより、学生達が2年間で自信をつけ能力を開花させていく様子が見て取れました。専任になる前には知らなかった、学生達との人間的なつながりや学生の成長ぶりを知り得たことは、私にとって大きな発見であり喜びでした。

退任後は関西の女子大学にて、今度は4年間(大学院も入れると9年!)という今までとは倍以上の期間をもって女子学生を指導し、その成長を見守ってまいります。本学で様々な機会に伺うことができた先生方の教育へのお考えや情熱、学生達の方針についての経験、そして青山学院女子短期大学の思い出は、どこへ移ろうとも宝としてずっと持って行きます。どうもありがとうございました。



小林知博先生は、3月で本学を去られ、神戸学院大学に転任されます。先生は2005年4月の着任早々から、教育と研究はもちろん、学内の実務に、さらにはアメリカへの姉妹校相互訪問の引率にと大活躍されてきました。また、先生は学生との交わりを非常に大切にされ、研究室からはいつもゼミやアドグル活動の明るく楽しい笑い声が聞こえていました。学生の成長を何よりの喜びとされ、学生から多くのことを学ぼうとされる先生の姿勢はさわやかさにあふれていて、まわりにいる私たちも、喜びをもって楽しく仕事をしようという気持ちになりました。そんな先生は、キリスト教主義の本学にじつにふさわしい方でした。それだけに、わずか3年での別れは残念でなりません。

私事ですが、私のアドグルのキャンブにおいてくださり、ともに楽しいひと時を過ごしたことは、学生にとっても私にとっても忘れられない思い出です。言葉にしえぬ感謝とともに、今後のご活躍を心からお祈りします。(教養学科 輪島 達郎)

# Our Memories

キャンパスの1年を振り返って・・・

入学式 (4月)

新しい1年の  
はじまりです。



グリーンパーティ (4月)

新入生歓迎と学生・教職員の  
親睦を深める集いです。

プレイディ (5月・12月)



学生と教職員がスポーツを楽しむプレイディは、春と秋の2回開催されます。今年度は春・秋あわせて約900名が参加しました。

まだまだ負けないよ！



青短のオグシオ?!  
バドミントンの  
宮田先生&藤本先生ペア  
秋のプレイディでは  
見事3位入賞です。

青山祭~2007テーマ: 大和撫GO!~ (11月)



学生生活最大のイベント。100名近い  
実行委員を中心に、春から準備をすす  
めてきました。

今年度は好天に恵まれ、実行委員会主  
催の絢香ライブ、中庭ステージでのダ  
ンスやチアの演技、クラブの発表・展  
示、クラス有志の模擬店など工夫を凝  
らした企画で来場者を迎えました。

点火祭&クリスマス礼拝 (12月)

学院のツリーに灯をともし点火祭と  
キリストの誕生を祝うクリスマス礼拝。  
心静かな時間を過ごします。



## 英文学科スピーチコンテスト



2007年11月30日に英文学科主催青山学院女子短期大学「第26回英語スピーチコンテスト」が開催されました。様々なテーマについて1年生の代表が英語力そして内容を競い、次の4名が栄えある賞を受賞いたしました。1位の小島さんは2008年開催の東京都私立短期大学協会主催「第34回学生英語スピーチコンテスト」に本学代表として参加します。

1位 小島 聡子 2位 伊藤 亜希 3位 岡田 友美  
審査員特別賞 鱈坂 万智子

また、2007年12月1日には東京都私立短期大学協会主催「第33回学生英語スピーチコンテスト」が私学会館にて開催されました。本学の代表として英文学科2年佐々木美央さんが出場し、見事優勝いたしました。優れた英語力のみならず、「How to Regain Happiness」と題して展開した説得力のある主張は、聞く人の心に響くすばらしい発表でした。

(英文学科 湯本 久美子)

クーリエ歌壇

教え子たちの短歌——今年度の作品から

国文学科教授 高野 公彦 選

玄関の上に小さなツバメの巣色紙で作った表札かける  
ツバメが巣を作ったので家族の一員として迎えよう、という  
気持で表札をかけた。「色紙」というのが可愛い。

玄関でデートに向かうわたしに言つた父の小さいいつて  
らっしやい  
英文一年 高橋 愛

お父さんは複雑な気持で、「いつてらっしやい」と声をかけ  
る。また、緊張しているから声が小さくなる。お父さんも心は  
揺れるのだ。

窓の横に忘れたままの風鈴がちていんちていんと秋風  
受ける  
国文一年 丸山 由貴

夏が過ぎて、そのままの風鈴はどこなく寂しい。ときおり  
鳴るといつそう寂しさが際立つ。「ちていんちていん」が良い。

コロコロと二階からどんぐりが落ちてきた僕には見え  
ぬがトト口の作業だ  
家政一年 増田 浩

なぜか二階からどんぐりが落ちてきた。幼子が遊んでいるの  
かもしれない。だが作者はトト口の作業と考える。ファンタジッ  
クな作品。

向かい合つわかきふたりの沈黙にミルクの膜が厚くな  
りおり  
国文一年 田代 麻里紗

お互い好き同士、しかし二人とも緊張して言葉が出ないのだ  
ろう。ういういしい恋人たちを描いた優しい作。「ミルクの膜」  
がリアルだ。

靴下とリースを飾り素敵だねママが焼いたスペンサル  
ケーキも  
国文一年 南 明日香

これは各句の初めに「く・り・す・ま・す」という字を置い  
た珍しい折句の作品。内容もクリスマスの光景を描いている。  
お見事。

「カレールーじゃがいも鶏肉にんじん」とレポート用  
紙にメモする五限目  
国文二年 三上 理奈

帰りに買ってきてね。とお母さんから頼まれた品物を授業中  
にメモしている。三上家の今夜のご飯はカレーライスのようにだ。

捨てられたゴミ入りマックの紙袋飢えたカラスが突く  
センター街  
都会は、ある面ではゴミの集積所だ。繁華なセンター街にも  
ゴミが捨ててある。それに群がるカラス。現代の都市風景をリ  
アルに描く。

「夕飯はチンして食べて」母からのひよこが描かれた  
メモを見る夜  
国文二年 一戸 美穂

お母さんは用事があつて出かけた。夕飯はチンすればいいよ  
うに用意されている。メモの片隅にヒヨコの絵が描いてあるの  
が優しい。

寡黙な彼こよいの望みは腕で語る浮かぶ血管「おまえ  
を抱きたい」  
国文二年 三宅 智子

彼は口数が少ない。でも今宵は、何かの気配を感じる。きつ  
と彼は私を抱きたいのだ。その証拠に、腕に血管が浮き上がつ  
ている。

熱いから燃えるのか分らない程に静かに生きている  
口ウソクの火  
国文専攻 椎名 恵理

熱いから燃えているはずだが、そんなに熱い感じは無く、あ  
くまでも静かに燃えている口ウソクの火。不思議な印象を与え  
る歌である。

纏足を履かざる子の足の指ますらおが望むままに曲  
がりき  
国文専攻 g橋 幸乃

これはかつて中国にあった纏足という風習を描いている。ま  
すらお(男)のエゴイズムのままに曲がる女の子の足。驚きや  
怒りを秘めた作。

\* \* \* \* \*

ヘッドホン外す即ちエンヤより墜ちゆけり都市騒音奈  
落へ  
高野 公彦

エンヤが好きで時々聴いている。清潔な高貴な爽やかなその  
音楽の世界。ヘッドホンを外すと、たちまち都会の騒音が私を  
包む。



クーリエ  
ブックレビュー

西洋古典の「翻訳」

国文学科教授 鹿倉 秀典



Beowulf & Grendel (Paramount Pictures) の公開を機に、岩波文庫『ペーオルフ』の旧訳(厨川文夫・昭和16年)と新訳(忍足欣四郎・平成2年)を読み直してみた。前者は旧字旧仮名文語体、後者は新仮名口語体となっている。さらに、厨川訳は原文の行数にこだわらず、専らストーリーを叙述するに徹し、忍足訳は原文行を極力生かすことを試みているようだった。もともと、私は厨川訳に接していたものだから、忍足訳には、物足りなさを感じていた。でも、これは私の思い込みだったのかも知れない。  
それは「グレンデルの母親襲い来たつてエスクヘレを奪い去る」(第19節-1251-1320)の「註」で、如実に感じた。厨川の「註」は「我國の長唄『綱館』に茨木童子が女に化けて、渡邊の綱が羅生門で、鬼神奪つた腕を取り返しに来る所を想起させる」として「其時伯母は彼の腕を、ためつ、すがめつ、しけじけと眺め眺めいたりしが・・・」と、江戸長唄『綱館の段』を長々と引用している。忍足訳は『太平記』の記事

にわずかに触れるのみである。  
欧米あるいは露西亞自然主義の文藝が、我国近代の文藝文化を發展させた事は、いまさら指摘するまでもない。私自身も、中学生までは「翻訳作品」ばかり読んでいた。でも、いまはどうか、往年の「名訳」は、もう「恣意的な難しい訳」になっているのかも知れない。ただし、これら旧訳の「詩情」自体は捨て切れないただろう。でも、学生諸君にはどうか。  
さて近年、読み易い「翻訳」が、様々な出版社から刊行され始めた。ドストエフスキーの『カラマゾフの兄弟』(光文社古典新訳文庫・亀山郁夫訳)なども、その一つだ。私が子供の頃、内藤濯訳で読んだ『星の王子さま』も、野崎歓訳『ちいさな王子』という改訳が出版されている。  
言葉は時代によって変わる。でも、文学作品は普遍である。ある「翻訳」で読んだのなら、別の「翻訳」にも挑戦して欲しい。そして、可能ならば「原文」で読むこともお薦めしたい。

## 同窓会のご案内

青山学院女子短期大学同窓会は毎年卒業生を迎え、会員数は5万名を超えています。青山学院で学んだ人は全て校友会の会員となり、短大同窓会も校友会の部会の一つです。同窓会は会員のデータ管理を厳密に行っています。卒業後の住所氏名の変更届は同窓会にご連絡ください。活動は社会に貢献する奉仕活動と生涯学習を柱としています。青山祭参加のバザーは学生の方々と交流させていただき、その収益は学院、短大奨学基金、また社会福祉団体などに献金しています。その他夏の軽井沢の集い、クリスマス礼拝、さつき会展（同窓生の作品展）があります。ボランティア



クリスマス礼拝・ハンドベルクワイア

のグループの活動として、はり絵・手しごと・朗読、また文化スポーツ活動は聖書と讃美歌の会・ハンドベルクワイア・たん

ぼぼ会（歩く会）があります。学科会活動（国文・英文・家政・児童・教養・芸術）もそれぞれ学科主催の講座を短大及び先生方のご協力を得



さつき会展

て、卒業学科を問わず参加することができ好評です。現在全国に7支部（北海道・東北・東海・関西・中国・四国・九州）が組織され、毎年支部総会には母校より先生をお迎えして講演や短大の現状を伺ったり、それぞれの地域で和やかな交流を図っています。これら同窓会の活動は年2回発行の会報でお知らせしています、是非ご覧になって参加してください。年1回発行の『チャイムズ』（青山学院・校友会共同発行）、校友会ホームページで校友の活躍や学院の情報もご覧ください。（同窓会会長 諸山 啓子）

### 卒業後の案内（問い合わせ先）

問合せ内容	担当部署	電話番号	ホームページアドレス
証明書・再入学・科目等履修生・編入・留学	女子短期大学教務課	03-3409-7045	http://www.luce.aoyama.ac.jp/
専攻科・短期大学士入試に関すること	女子短期大学入試広報課	03-3409-7145	
就職相談	女子短期大学学生課就職係	03-3409-7097	
教会案内	女子短期大学宗教活動センター	03-3409-7120	
卒業後の住所変更	女子短期大学同窓会	03-3499-3149	http://www.agulin.aoyama.ac.jp/
図書館利用	女子短期大学図書館	03-3409-7103	
中軽井沢寮の利用（夏期のみ）	女子短期大学庶務課	03-3409-7086	
青山学院万代奨学金返還方法・口座振替	青山学院本部財務部本部財務グループ	03-3409-6547	
青山学院万代奨学金返還猶予・住所変更等	青山学院本部総務部庶務課	03-3409-6463	
日本学生支援機構奨学金に関すること	日本学生支援機構奨学事業相談センター	0570-03-7240	http://www.jasso.go.jp/

\*ホームページで取り扱っていない内容については担当部署へお問い合わせください

### 卒業式・卒業礼拝の案内

- ◎2007 年度卒業礼拝（青学講堂）  
3月21日（金）  
13時30分（13時20分集合）  
※礼拝後クラス会にて成績通知書を配付します。
- ◎2007 年度卒業式・修了式（青学講堂）  
3月22日（土）  
10時（9時開場、9時40分集合）  
※ご父母の皆様には別途ご案内申し上げます。  
※卒業生・修了生以外の学生が参列する必要はありません。

### 新2・3年生・専攻科生への 新年度案内

- ◎2008 年度2・3年生  
書類配付・履修指導  
4月2日（水）9時30分
- ◎2008 年度新生・専攻科生  
学生証・書類配布  
4月3日（木）10時～11時30分
- ◎2008 年度入学式（青学講堂）  
4月3日（木）13時（新生・専攻科生）
- ◎2008 年度始業礼拝（青学講堂）  
4月4日（金）10時

### 編集後記

春3月、いよいよ卒業の時節ですね。短期大学での「学び」を終えて、様々な進路に向かって巣立っていく皆さん、おめでとうございます。そして、時を同じくして、教職員のなかからも退職あるいは転任される方々、お疲れ様でした、また新たな境地を切り開いてください。青山学院の緑に囲まれたキャンパスで過ごす時間は、ほんとうに瞬くうちに過ぎ去っていきますよね。でも、ここでの時間のすばらしさをずっと忘れないことでしょう。（鹿倉 秀典）

### 編集委員

奥村健一 鹿倉秀典 志賀智江  
鈴木智美 田口恵子 寺村眞佐子  
山口静香 山田美穂子